

「三股町名誉町民」第1号 小倉義常

『広報みまた』No.13（昭和39年7月号）より



故小倉義常氏

氏は昭和八年より三十八年に至るまで前後六期実に二十五年の長きに亘って町議会議員の職に奉じられ、その間には助役の職にもたずさわり、又議長の要職も経られて、円熟と卓越した手腕と温厚な人柄によって、常に信望を集められ、町政に果された功績は絶大なるものがあります。

未だ氏の生前に、町においてはその功績を讃えると共に、



二十五年

名誉町民の称号を受けて 小倉義常氏静かに逝く

故小倉義常氏は去る六月十五日八十一才の生涯を静かにとじられました。

に広く世に顕彰しようと、三股町名誉町民の称号を氏の病床に報告、贈呈申し上げました。

氏は「人の為には尽くさねばならぬものだ」と喜色にあふれ、にっこりとこれを受けられたのでありますがその喜びも束の間、天はこの人に命をかさず、御回復を祈る切ない望みもむなし、遂に静かにその一生を終えられました。

その町民葬が去る六月十六日、多くの会葬者の中に厳しゆく且つ盛大にとり行なわれました。

人の世の定めとは申しながら氏の急逝は惜しみてもあ

まりあり、痛恨これに過ぐるものではありません。

御家族の悲しみは勿論のことと並いる参列者も悲しみにとざされて、告別式はしめやかさの中にとざされました。

氏は生前、清れん、謹直、情誼に厚く、多くの人々の敬慕の中に、本町発展の歴史と共に生き、そして今一生を終えられたのでありますが、ひるがえって思いますが、まさか生きていますと、まさか生きていたのある人生を完うされたものと言えましよう。

私達は生前の氏の業績と人徳をしのび深く哀悼の意を表し、つゝしんで御冥福を祈りたいものです。

「三股町名誉町民」第2号 上原荘吉

「三股町名誉町民」第3号 福永広記

『広報みまた』No.23（昭和40年6月号）より

栄ある 三股町名誉町民に 故小倉義常氏について

上原 福永の両氏が

本町においては住民福祉の増進、産業文化の伸展に基き、或いは又公共事業に偉大なる貢献をなして、その功績が顕著である人に對して三股町名誉町民の称号を贈り、広く、高きたえらるることになつております。その栄ある名誉町民第一

農業近代化の先覚者 上原 荘吉氏

区画整理
にかんがい
に心血を注ぐ

上原荘吉氏は明治四十二年当時弱冠三〇才、他に先がけて桃山耕地整理組合を組織し、農業生産性向上には

高低、面積等雜然とした古田の区画整理の必要性を広く力説し、そしてその成就に精こんを傾け又町内を貫流する河川のかんがい実現に心血を注ぎ常に地域住民の先頭に立つてその実行力と研究心は今も尚世の語り卓となつております。

本町においては時あたかも農業構造改善事業による土地基盤整備事業が着々成果をあげつつある事は過去

福永広記氏

畜産界の重鎮として
至誠
一貫 不可能を知らず

福永広記氏（七十二才）は大正一〇年、郡市畜産組合代議員並に評議員に歴任以來現在に至るまで全国をまたにかけ、すでに全国畜産界及競馬界の重鎮として存在を久しく、終始畜産振興に心血を注ぎ、特に酪農経営の振興による三股町民の経済力向上の基礎を確立されたことは人も知るところ

氏は今東原の自宅にて熱心に余生を送つておられますが、余りし当時の情熱忘れがたく今日の農業構造改善事業による土地基盤整備事業にひとみを輝やかしながら堪えずした激励、助言の言葉をおくつておられます。

又一方町議會議員として昭和四年より昭和三四年に至るまで実に七期連続三〇年間、戦前地方自治行政のようらん時代から戦後の地方自治制度の過渡期における極めて重要な時期に今日の三股町伸展の確固たる基礎を確立された業績は真に偉大であると言ふことが出来ましよう。

今も尚かくしやくとして活躍しておられる氏は「ナポレオンが自分の辞書に不可能の文字はなしと言つておりますが自分もこれを唯一の信条として凡ゆる障害をのりこえて来たが今後とも生命の続くかぎり至誠一貫

福永広記氏

畜産界の重鎮として
至誠
一貫 不可能を知らず

氏は今東原の自宅にて熱心に余生を送つておられますが、余りし当時の情熱忘れがたく今日の農業構造改善事業による土地基盤整備事業にひとみを輝やかしながら堪えずした激励、助言の言葉をおくつておられます。



大河内利雄町長から上原荘吉氏へ贈呈の様子
(三股町役場 総務課 秘書広報係提供)



大河内利雄町長から福永広記氏へ贈呈の様子
(三股町役場 総務課 秘書広報係提供)

「三股町名誉町民」第4号 大河内利雄

『広報みまた』No.129（昭和53年6月号）より

広報みまた 6月号



大河内利雄氏

名誉町民に 大河内利雄氏（六十八才）

名誉町民（第四号）に三月二十日町議会で大河内利雄氏（68才）が選定されました。これに基づき去る五月二十日役場において名誉町民称号、ならびに名誉町民章の贈呈式が行われました。

名誉町民は町条例によりますと「本町住民の福祉の増進、産業文化の進展又は公共的事業に偉大な貢献をなし、その功績が顕著である本町住民または本町に縁故の深い者に三股町名誉町民の称号を贈る。」とあります。

本町の名誉町民は故小倉義常氏故上原壮吉氏、福永廣記氏に次いで四人目であります。
大河内利雄氏の略歴を紹介しま

すと昭和九年三月早稲田大学卒業後宮崎県庁入り、昭和二十一年一月小林勤労働員署長を最後に依願退職、昭和二十一年六月三股村助役に選任され同年九月から昭和二十三年五月まで三股村長同年五月三日より昭和二十六年三月まで三股町長、同年四月より昭和三十二年八月まで三股町農業協同組合理事長を歴任の後昭和三十二年九月より昭和四十八年九月まで三股町長を歴任されました。

氏はその間産業経済、教育文化、公共福祉、環境整備など各方面に高度な見識と卓越した行政手腕を発揮され地方自治の振興に精魂を傾けて三股の町政発展と町民



名誉町民称号を受ける大河内氏

の生活向上に尽された功績は誠に偉大なものであります。

今回の受賞を町民の皆さんと共に心からお祝い申し上げ氏の今後の御活躍と御健勝をお祈りします。

尚大河内氏は受賞記念として図書（増谷文雄著正法眠蔵全八巻）を町に寄贈されました。

名誉町民 故桑畑正一氏

安らかな眠りに



九月七日町議会に於いて、名誉町民の称号を贈られた桑畑正一氏(71)は去る十月八日午後十時三十五分悲しくも永眠されました。

私達町民は今改めて氏の今までの数限りない御功績と御労苦に對しまして深甚なる敬意と感謝の誠を捧げ、永遠に安らかな御冥福を心からお祈り申し上げます。

故桑畑正一氏は、明治四十一年山王原に生を受けられて以来、焼酎の醸造に専念されるかたわら、昭和十七年三十四才の若さで村議に初当選、以来政界人としてその崇高明晰な手腕によって他の追随を許さず、本町だけでなく、県下各市町村を始め本県の発展のために尽力された方であります。

特に昭和二十二年から十六年間にわたる県議会議員としての御功績は町民等しく認めているところであります。

その他町商工会長、町消防団長をはじめ町農業協同組合長、県農

ものであります。 黙禱



協連合会長など、各般にわたって高度な識見と、明敏誠実な資をもって事業を推進され、本町の今日の発展の基礎を築いて戴いた方であります。

氏のご様な数々の御功績に報いるため、国におきましては昨年の十一月三日に、勲五等双光旭日章を贈られました。本町におきましても十一月三日に名誉町民章の交付を計画したのであります。

名誉町民故桑畑正一氏の町民告別式は、天候もおだやかな十月十三日町体育館でしめやかに行われました。

式場には町内は勿論、県、県議会議員をはじめ、県内各市町村の関係者等五百名余が参列し菊の花に飾られた遺影の前で氏との最後のお別れを惜しみながら焼香の列

はとめどもなく続いていました。

- 故桑畑正一氏の略歴
- 昭和三年 明治大学卒業
 - 昭和17年 22年 村議会議員
 - 昭和22年 38年 県議会議員
 - 昭和10年 21年 町消防副団長
 - 昭和21年 34年 町消防団長
 - 昭和18年 20年 町商業組合長
 - 昭和20年 22年 郡商工会監事
 - 昭和22年 25年 町農業会会長
 - 昭和23年 25年 県農協連会長
 - 昭和25年 28年 町農協組合長
 - 昭和20年 消防団発展に尽力した功績により知事表彰
 - 昭和32年 県議として永年地方自治の発展に尽した功績により全国議長会表彰
 - 昭和53年 地方自治功労者として勲五等双光旭日章受賞



教育文化の進展、畜産振興に功績 — 消防団長、教育委員、食肉組合理事長など歴任 —

町は、二月一日付
けで中村英蔵さん
(八十一歳、中米)
を名誉町民(第六号)
にしました。

名誉町民の称号
は、住民の福祉増進
や産業文化の進展、
公共的事業に偉大な
貢献をし、その功績
が顕著である人に贈
られるもので、これ
までに元町長の故大
河内利雄さんら五人
(全員故人)が名誉
町民となっていてい
ます。

中村さんは、教育



中村英蔵さん
81歳・中米

名誉町民に中村さん

委員として通算二十五年もの永い
間、町教育行政の進展に貢献され
るとともに、消防団長や交通安全
協会三股支部長、宮崎地方裁判所
調停委員としても多年にわたって
活躍されました。また、昭和二十
一年都城食肉事業協同組合の設立
に尽力され、以来、理事長として
四十六年もの永い間、組織の充実
発展を通して都城圏域の畜産振興
に大きく寄与されています。

これらの功績により、これまで
に町文化賞を受賞されたのをはじめ
め、県知事や農林水産大臣、厚生
大臣、警察庁長官などから表彰さ
れ、昭和五十二年には藍綬褒章、
昭和五十八年には勲五等瑞宝章に
輝かされています。

中村英蔵さんの主な経歴

(公職歴)

昭和21年5月～昭和25年4月	三股町農地委員
昭和26年11月～昭和32年11月	三股町消防団長
昭和26年11月～昭和31年9月	三股町教育委員会 委員
昭和27年1月～昭和57年3月	宮崎地方裁判所調 停委員
昭和43年10月～昭和63年9月	三股町教育委員会 委員

(民間歴)

昭和21年4月～平成4年3月	都城食肉事業協同 組合理事長
昭和34年10月～昭和48年5月	交通安全協会三股 支部長

(他に、都城地区調停協会会長、都城地区食品衛生
協会副会長、県家畜商業協同組合専務理事など)

二月一日に称号贈呈式

式典参列などの特典付与

名誉町民の称号贈呈式は、一日
の午前九時から役場大会議室で行
われ、町四役や正副議長、各常任
委員長、教育委員長など約四十名
が出席。式では、中村さんの数々
の功績を小倉助役が紹介した後、
福永町長から名誉町民の称号と名
誉町民章、年金証書が中村さんに
贈られました。続いて、福永町長
と高畑議長がお祝いを述べた後、
中村さんが「名誉町民に選ばれて、

こんなうれしいことはありませんが、
ん。何のお返しもできませんが、
三人の息子たちが、私の代わりに
してくれるものと確信していま
す。」とお礼の言葉を述べました。

なお、名誉町民となった中村さ
んには、条例に基づいて毎年年金
が支給されるほか、町の公の式典
への参列などの特典が与えられて
います。